

「厚真町の夢のある英語教育」をめざして —平成24年度～26年度の取組の成果—

社会の国際化・グローバル化が急速に進む中、本町においては他の地域に先駆けて文部科学省の「教育課程の特例校」の指定を得て、平成24年度から小学校低学年への英語活動の導入を実施し、この特例校指定の3年間の報告を3月末に文部科学省に提出しました。

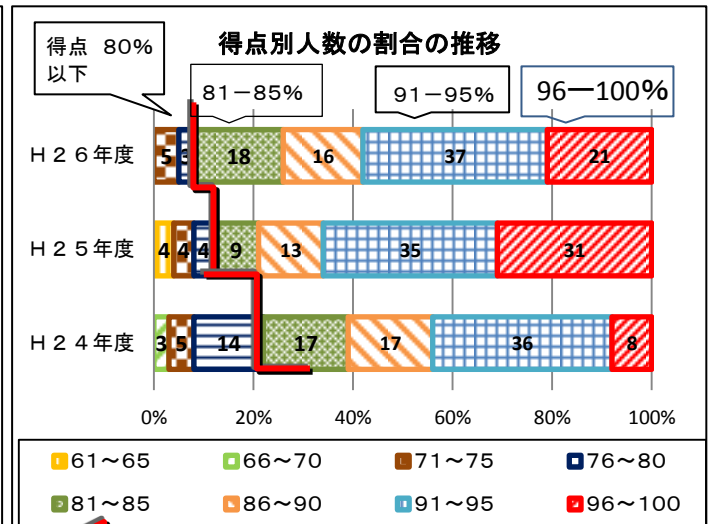
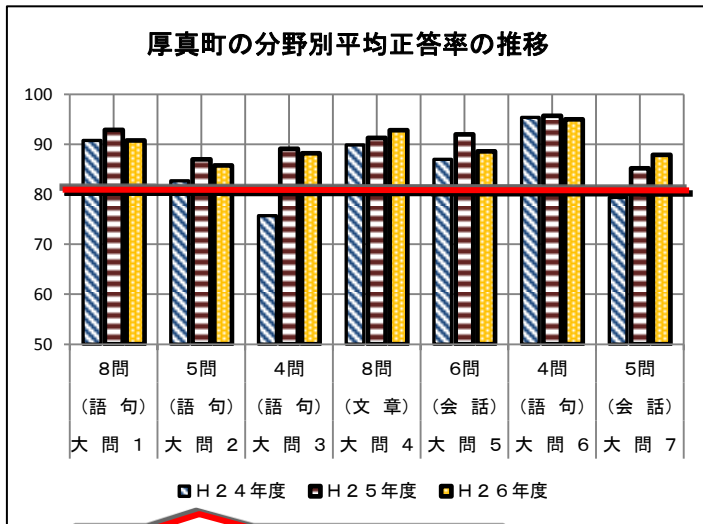
低学年からの英語活動導入の課題は、5・6年生では「Hi friends!」という教科書（指導用図書）や指導の手引など、指導のための資料も用意されていますが、本町で実施を進めている4年生までの英語活動は本町独自のものであり、新たなカリキュラム開発と、それに基づく授業づくりを進めると同時に、児童英検、アンケート調査を活用した成果検証を行いました。さらに、低学年からの英語活動が国語科の学習に及ぼす影響についても調査し、下記のような結果を得ました。



厚真中央小学校の公開研究会から

また、厚真中央小学校を会場として実施した「厚真町英語教育研究大会」では、胆振管内のみならず全道からも多数の参加者を得ました。大会で講演をいただいた文部科学省教科調査官の直山木綿子氏からは、授業の取組、子どもたちの活動のよさが大きく評価されました。

<児童英検の結果から見る英語活動導入の成果>



1. 平成26年度の正答率は、全ての設問で平均正答率で80%をこえました
 2. 文章問題、会話問題の正答率が平成24年度に比べ伸びました

80%以上の得点を90%の児童が達成することを目標としました

平成26年度は、92%の児童が正答率80%をこえました

<英語活動導入による国語科への影響>

- ・経年観察から、平成24年度の英語活動の導入による国語科のCRT結果への影響は認められませんでした。
- ・平成24年度以降の結果は、同時に進めた学力向上の取組の成果でもあるが平成23年度を基準とすると改善・向上の傾向がみられました。

全国平均の得点率を100として比較

CRT国語科の結果推移

